

平成 29 年度第 2 回「千歳市子ども・子育て会議」会議録

日 時	平成 30 年 1 月 15 日（月）14 時～16 時 20 分	
会 場	議会棟大会議室	
出 席 者	（委 員）※50 音順	（市・事務局）
	委 員 青砥 三枝子 委 員 吾田 富士子 委 員 石岡 くに子 委 員 上田 純恵 委 員 大関 恵子 委 員 河岸 由里子 委 員 倉田 真智子 委 員 児玉 美津子 委 員 三溝 昌宏 委 員 谷掛 亜紀 委 員 辻 裕子 委 員 伝庄 彩子 委 員 西 博康 委 員 松浦 まゆみ 委 員 三浦 朋美	こども福祉部長 上野 美晴 こども福祉部次長 千田 義彦 こども政策課長 北村 昌樹 こども政策係長 高松 康太 こども政策係主任 石井 彰子 こども政策係主任 村井 友紀子 こども政策係主事 菊池 航 （市・関係部署） こども家庭課長 磯部 由起子 子育て総合支援センター長 石田 英子 こども療育課長 佐々木 幸廣 保健福祉部母子保健課長 山谷 奈奈子 主幹（産前産後ケア担当） 渡辺 幸子 教育委員会企画総務課長 米山 伸哉 保育係長 金井 貴史
事 務 局	こども福祉部こども政策課	
会議の公開	公開	
傍聴者数	無し	

## 1 開会

（こども福祉部長あいさつ）それでは、会議の開会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

吾田会長をはじめ委員の皆様には、お忙しい時期にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。第 1 回目の会議では、「第 1 期千歳市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しと、これに付随する事項として、保育定員を今後約 2 年間で約 200 人拡大する方針についてもご審議をいただきました。

進捗状況につきましては後程ご説明いたしますが、本年 4 月には、約 100 人分の受け皿を拡大する見込みとなり、現在、31 年度の保育定員の拡大に向けて検討

しているところであります。

今年度は、このほかにも、「緑小学校の学童クラブの新築・移転整備」や、「子育てママ応援会議」の新設などの事業を実施したほか、「ちとせ版ネウボラ」や、「ちとせ子育てコンシェルジュ」の事業の充実にも取り組んでいるところであり、「子育てするなら、千歳市」の主要事業の数は、45 事業くらいまでに増えております。

来年度は、次期「千歳市子ども・子育て支援事業計画」の策定への着手となります。委員の皆様のご意見を参考とさせていただき、よりよい計画を策定すべく取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援をお願い申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

## 2 議事等

委員数 16 人中 14 人の出席につき、会議が定足数（委員の半数以上の出席）を満たしていることを確認。（確認後、委員 1 名が途中から出席した。）

会長により議事進行。

（会長あいさつ）皆様、あけましておめでとうございます。事前に配布された計画の実施状況は A 評価ばかりとなっています。ですが、その中にこそ危険が潜んでいることもあります。皆さんの鋭い眼差しで見抜いていきながら、内実ともに子育て世代に選ばれるまちになるように会議を進めていきたいと思っていますので忌憚のない意見をお願いします。

議事等（1）「第 1 期千歳市子ども・子育て支援事業計画の平成 28 年実施状況に係る点検・評価について」

こども政策課長から「資料 1」により説明。

（会長）特に御意見、御質問が無いようなので、事務局の提案通り決定したいと思います。

議事等（2）平成 30 年度教育・保育施設等の利用定員について

千歳市子ども・子育て会議条例施行規則第 2 条第 4 号の規定により、決議に利害関係を有する 6 名の委員が一時退席した後、こども政策係長から説明。

（審議内容については、千歳市情報公開条例第 9 条（5）の規定に基づく非公開事項につき、省略。）

議事等（2）について、事務局提案どおり可決となり審議終了。

議事等（３）「急増する保育ニーズへの対応について」

こども政策課長から「資料３」により説明。

（会長）「子育てするなら、千歳市」が浸透してきているのか、保育ニーズが増え、急いで対策をしているということです。一方、パブリックコメントにおいて出された「保育料が高すぎます」という意見について、今回の中間見直しには直接関係が無くても、心に留めておくことが大事だと思います。

（Ａ委員）次年度にむけた対策として「保育士確保・定着への支援」が挙げられていますが、潜在保育士を見つけるのは大変だと言われています。「効果的な説明会」や、「潜在保育士の職場復帰への意欲を高める」施策について、どのようにイメージし、検討されているかお聞かせください。

（こども政策課長）これまで市では、「保育士等人材バンク」、「保育士等合同就職面接・説明会」等を実施し、市内の保育施設等に情報提供をしております。さらに今年度からは、保育士の子どもの優先入所や、北海道社会福祉協議会による貸付制度のPRなどを行っています。他市の状況も調べながら、効果的な方策について今後も検討して参ります。

（Ｂ委員）「自分の子どもに手がかからなくなったら働きたい」という人はいますが、子育て中はホームページをゆっくり見ることも難しいです。子育てをしたからこそ良い保育ができるという側面もありますから、乳幼児健診のときなどに、目安となるような情報が、手に取れるところにあると良いと思います。

（こども政策課長）周知方法については検討し、皆さんの目に留まるように考えてまいります。

（こども福祉部長）千歳市は、保育士養成学校がありませんので、他市と比べ、新卒者を取り込むのが難しい一方で、保育ニーズの増加に合わせて、毎年、保育定員を拡大しています。保育施設の事業者にも意見を聞きながら、次年度は、新卒と潜在保育士に合わせた確保策を実施していきたいと考えております。平成31年度に向けた施設整備に係る事業者募集の公募も早めに開始するので、保育士の募集準備も早くできることとなります。

また、今年度新設した「子育てママ応援会議」では、ハローワークの職員も参加していただいております。情報を得て、保育士確保を強化したいと思っています。保育事業者や現場の方にお知恵を借りる事があると思いますので、その際はよろしくお願ひします。

（Ｃ委員）4か月児健診に子育てコンシェルジュが来ているので、潜在保育士への情報提供をしやすいのではないのでしょうか。

会長に伺いたいのですが、保育士を育てる立場から、保育士の離職が多い理由

は何だと思えますか。

(会長) 園長は働き方改革について認識が高い方が多いですが、他の先生は、自分が新人の頃厳しくされてきたのと同じように、下にも厳しく接してしまいます。あるいは、新人が辞めていないけれども、中間の職員が不満を抱えている場合もあります。

また、潜在保育士は子育てが一段落して、子どもが幼稚園に行っている間だけ仕事をとっと思っても、園としては毎日来てほしいと思っっているというようなミスマッチが発生しています。学生は今、一般企業も含め就職に優位な状況にあり、少人数をしっかりと保育することができ、給料の良いところが人気のようです。実習に行っって良かったところに就職するっという傾向もありますが、札幌の学生が千歳まで実習に通えるでしょうか。

(B委員) 保育士の養成学校からは、千歳から通っっている学生はいないので紹介できないと言われってしまいます。

(会長) 千歳の子は近隣市にある学校に通うのでしょうか。札幌も保育士不足で、条件の良い東京で就職する学生もいます。その中で、千歳に住むメリットは何でしょうか。

(D委員) 本州に行きやすいことや、結婚しやすいことです。

(E委員) 若手保育士の中には、自宅から通う子もいますが、一人暮らしの子が多く、家賃の負担が辛いと聞きます。また、実習生に対して、園長は優しいですが、現場の保育士は「指導する」感覚が強く、保育者としての思いがあり、厳しいようです。

(D委員) 他市では、保育サポーターとして、保育士資格のない職員に手伝ってもらっっている例がありますが、千歳市ではいかがでしょうか。

(こども政策課長) 千歳市では、保育の質の確保を謳っっており、最低でも国の基準は守り、施設整備員を除いては、現状としては、資格のない方を保育士としてみなしておりません。

(会長) 保育士としてではありませんが、栄養士でも保育に入ってもらっっているところはあります。

(D委員) 資格が無いので、保育士と給料などは違いますが、子ども好きな人がパートで入ることで、母親が働く場となっっているようです。保育士が足りないのであれば、そういう活用も考えていただけたらと思っいます。

(会長) 保育の仕事をしてみて、「この仕事がしたい」と思ったら国家資格を受けられるような支援をしているところもあります。

(E委員) 保育補助者の雇い上げに対する補助制度が認識されていないと感じます。自分たちで調べていかないとわからない状況です。

(会長) 保育者としても、無資格者に対して教えてあげないといけなないので、自覚が必要となります。

では、次へ進みます。

#### 議事等（４）「その他」

こども政策課長から「資料４」により説明。

（会長）会議のメンバーから、何かご発言はありますか。

（F委員）毎回、事前にテーマが知らされ、会議前に各自で意見をまとめ、会議では順に意見を言わせていただき、勉強になっています。

（こども福祉部長）委員の方がテーマについて調べたり、周りの意見を聴取し代弁してくれたり、非常に現実的で取り組みやすい内容が意見として挙げられています。来年度に中間報告をしますが、もう体现化したものもあります。行政が分からない部分のご意見をいただき、非常に意義のある会議です。

（会長）他にご意見ありませんか。

では、次お願いします。

子育て総合支援センター長から「資料５」により説明。

（会長）学童クラブでは、外で遊ぶことはあるのでしょうか。

（子育て総合支援センター長）近くの公園に出かけたりします。今は校舎内に学童クラブがあるので校庭を使わせてもらうほか、夏・冬休みにはバス遠足など、それぞれのクラブで取り組んでいます。

（会長）公園には、ボール遊びをする空間はありますか。

（子育て総合支援センター長）すぐそばに大きな道路がありますので、道路に飛び出さないよう指導員が見守りながらになります。

（会長）就学前の子どもと違って体を持て余すのではと思いますが。

それでは、次お願いいたします。

こども療育課長から「資料６」により説明。

（会長）障がい児の計画はこの会議では初めて取り上げますね。

（こども福祉部長）これまでは、障がい者と障がい児がひとつの計画として位置づけられていましたが、法改正により障がい児に特化したものを作ることとなりました。これらの計画については「自立支援協議会」及び「保健福祉調査研究委員会」で調査・審議をし、庁内でも会議をして策定しています。この会議では、報告、情報提供として留めていただければと思います。

（会長）質問はありますか。

特に無いようでしたら、最後にみなさんから一言ずつお願いします。

(G委員) 幼稚園での2歳児受入や、幼児教育の無償化などの議論がある一方、ゆるくなっている学生に質の高い保育を求めつつ、良い保育をするための努力が必要だと痛感しました。

(H委員) 潜在保育士の方は、国や市が復職を働きかける中で、自分の子どもを育てたい思いと、働きたい気持ちの間で葛藤しています。働き方改革と言われていますが、働き始めてみると話が違うという園もあり、責任と、自分の子どもの間で板挟みになっています。短時間勤務の保育士を含めて担っていかないと補えないのではないのでしょうか。

また、パートで働く方が増えると、一時保育で子ども預ける人もおり、リフレッシュで一時保育を利用したい人が圧迫されるため、一時保育は、リフレッシュ目的の利用を別枠でお願いしたいです。ちとせっこセンターのつどいの広場で実施している、ママ講座・パパ講座では、子どもをもつ母親がボランティアで託児を引き受けています。人の役に立てたことで、自分の子に向き合うときの気持ちも変わってきたという方もいますし、この活動をきっかけに保育士の就労につながればと期待しています。

(D委員) 最近の学生は良いところもありますが、ドライだと感じます。それを意識しながら保育士の確保を考える必要があります。

(I委員) 自分自身、子育てをしながら保育士の資格を取りたいと考えたことがありますが、お金がかかりますし、身近にいる有資格者が復帰せず他の仕事を探している様子を見ると、なぜ保育士はそうなのだろうかと疑問です。

(会長) 給料面の問題があります。

(I委員) 現状が改善されればと思います。

(会長) 命を預かる仕事だということに加え、保育以外に計画をたてたり、準備をしたりという業務があり、それを子育てや家事をしながらでは無理だと思います。

(J委員) 保育士の子どもの優先入所について、もっと点数が高い方が良いと思います。復職当初は慣れないだろうからと短時間勤務で働き始めようとすると、利用調整基準の点数が低くなり、保育所に預けにくくなってしまいます。保育士は1人雇うと最大30人の子どもを保育することができるため、影響は大きいです。

(こども政策課長) いただいたご意見を、今後の課題にさせていただきます。

(K委員) 障がい児について、グレーと言われる子が増えてきています。今までグレーと言われていた子どもたちも早めに認定を受け、通所できるようになれば、子どもたちにとってより良いと思います。

また、保育士の不足については、補助者を認めていただければ、資格はなくても働きたい方がいると思います。

(L委員) 仕事をしたいと思ったときに重要なのは、空いた時間で働けることと、子ども

もの病気などで休みやすい雰囲気です。ママさん教室の託児ボランティアをして保育の仕事に興味をもったので、そういう機会があると保育士が増えるのではないのでしょうか。

(こども政策課長) 北海道社会福祉協議会で実施している資格取得や復職に係る貸付金については、ちとせ子育てネットから道社協のホームページへリンクしていますので、ご活用いただければと思います。

保育士の子どもの優先入所については、利用調整基準における加点が、労働時間により決まっており、1日7時間以上、月20日以上働くと45点の加点。月48時間から140時間までが40点の加点としております。

(会長) かなり厳しいですね。もう少し柔軟に対応できたらと思います。

(こども政策課長) 保育士の確保を重視して検討した結果、かなり高い点数になっていますので、ご理解いただければと思います。

(C委員) 子育てママ応援会議をもう3回も開催していることに驚きました。現場の意見が反映されると良いと思います。

(F委員) 千歳では、「森のようちえん」といといが自主保育型幼稚園として、千歳の自然の中で、親子で遊ぶ活動をしており、市としても支援してもらえたらと思います。

(E委員) 保育士の確保に当たっては、学生に来てもらうことが重要です。経済的に進学できない高校生に、情報提供ができれば良いと思います。

(会長) 他市町村では、地元での就労を条件に奨学金を出しているところもありますが、千歳市ではいかがでしょうか。

(こども政策課長) 千歳市には、そういった制度はありません。

(M委員) 新卒はなかなか応募が無く、子どもを持つ保育士であれば、何人も応募があります。しかし、小さな子どもがいると勤務時間が難しく、折り合いがつかないなどの悩みがあります。学生に魅力を感じてもらえる環境作りが必要です。

(会長) 実習に行った学生が、幼稚園の先生たちは忙しそう一方、保育所では若い先生が15時で帰っていく姿を見て、保育所で働きたいと言っていました。あとは、20～22歳が魅力を感じるまちであれば、人は集まると思います。

(N委員) 求職者の考えが変わってきていると感じます。介護業界では、7～10年前は夜勤をやりたがる人はいませんでしたが、今は夜勤からシフトが埋まっていきます。30代半ばから40代半ばの方が、朝2時間、昼4時間・5時間と勤務し、短い時間だとパワフルに働いてくれています。

(B委員) 中学生の実習を年間300人ほど受け入れており、そこで楽しく過ごした記憶から実習先として選ばれやすく、就職にもつながっています。また、高校生のインターンシップで、進学したいけれども経済的に保護者に反対されていると話していた生徒が、保育のやりがいや楽しさを聞いて、保護者に貸付制度などを説明し、進

学を決めたという例もありました。保育士の学校に行きたいと思うような、「学校の夏・冬休みに園でボランティアをしませんか」という機会を作ってはどうか。資格を取った人を待つのではなく、「育てる」をアピールしていくのです。小さい時からなりたいと思っていると、辞めないで長く続けるという効果もあると思います。

(会長) 学生の12年間のうちにどこかで一度は必ず園に行く、義務化制度を作ってはどうか。

(A委員) 療育教室を運営しています。これまでは健常児と関わる機会がありませんでしたが、市内の認定こども園から声をかけてもらい、地域の子どもへの開放に参加させてもらっており、心強く感じています。

(会長) 市も頑張っているし、現場も頑張っている声を聞ことができました。今年も頑張らしましょう。

(こども政策係長) それでは、これをもちまして、平成29年度第2回子ども・子育て会議を閉会いたします。本日は、ありがとうございました。

### 3 閉会